

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第4区分

【発行日】平成18年4月6日(2006.4.6)

【公開番号】特開2006-34095(P2006-34095A)

【公開日】平成18年2月2日(2006.2.2)

【年通号数】公開・登録公報2006-005

【出願番号】特願2005-204925(P2005-204925)

【国際特許分類】

H 0 2 K 53/00 (2006.01)

【F I】

H 0 2 K 53/00

【手続補正書】

【提出日】平成18年1月20日(2006.1.20)

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

半導体の開発が遅れたので、石油に依存ばかりだったが、環境問題への関心が高い燃料油は硫黄を含んでいて燃焼すると窒素酸化物を出し困るので、半導体付発電機でうず電流を、半導体を使って電気に変え、モーターを使って原動機に見える。

イ・ 電機子を磁界内に設け、銅線と希土類磁石で作ったうず電流を電気に変へ、ブラシ電極+側に半導体を設け、半導体発電機を作り、発電機のモーターで動かす完全無公害車。

ロ・ 船のエンジンは、焼玉エンジンとジーゼルエンジンが主流だったが燃料の油が高騰になり、陸上ばかりでなく、海上も窒素酸化物を規制せねばならないので、電気制御が簡単に出来る（前進、後進）完全無公害船半導体付発電機を作ることが出来る。

ハ・ 回転磁界（6）の中に電機子（1）を置き、界磁（6）でうず電流を起こさせ、うず電流で電機子（1）を回転させて電気を作り発電機のモーターで電車のエンジンとする半導体付発電機。

二・ 電機子の回転がだんだん早くなつて、回転磁界の速さと同じになると、うず電流は磁界の変化を感じなくなり、うず電流は生まれず、回転力はなくなり、電気は起きなくなるので電極+側に半導体（サイリスタ）を設ける。

ホ・ 今まで、ここまで分かっていたが、この先どうしたら解決できるかと言うと先が分からなかつた。それがあつたのです。今からこの項で申し述べます「図3」に示す通りp n p n接合構造の3番目のp層にゲート電極を付け、スイッチ動作を行わせる半導体素子。この構造では、陽極（p層）と陰極（n層）間の電流-電圧特性に負性抵抗が現れる。そこで、ゲート電極から流れ込む電流の大きさに従つて電流-電圧特性の動作点を移動することにより、オフ（電流が流れない）状態からオン（電流が流れる）状態への切り替え（スイッチング）を行える。半導体（サイリスタ）（4）を付けた、半導体付発電機。

ヘ・ 子供の玩具の、半導体に微量の3価の元素（ホウ素等）を加えると電子が少ないp型半導体に、微量の5価の元素（ヒ素など）を加えると電子が多いn型半導体となるよう、どちらも加える不純物の量によって電流の流れが数桁よくなる性質があるので、電流を人口的に制御しやすく、電子素子、光素子に多用される。

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

将来、交直流発電機を作るのに、半導体発電機で蓄電池からの電気で電機子を回転させて出来た、うず電流で電機子を回転させ出来た電気を蓄電池に蓄えこの電気で車、船、電車、動く物の原動機とするのに、電極+側に半導体を設け、いつも磁界の変化を感じさせ、うず電流で電気を作るから危険カーブ等の制御が容易になった。

回転磁界の中に銅版（電機子）を置けば、うず電流が出来て、電極と磁界のあいだに力がはたらきます。このとき銅版を回転しやすくしておけば銅版は、回転磁界の速さと同じになると、電機子は磁界の変化を感じなくなり、磁界の変化がなければ、うず電流は流れなくなり、回転力はなくなります。しかし、電機子の回転が遅くなつくると、磁界の変化を感じるようになり、また回転力がでてきます、同道巡りが続く。